

## イチゴのハダニ防除に天敵を継続的に使用している生産者の防除評価

農業・園芸総合研究所

### 1 取り上げた理由

減農薬栽培の一手法として、イチゴ栽培においても生物農薬(天敵等)が導入されている。

しかし、天敵を使用した場合の収量・品質・防除効果は明確でなく、生産者が天敵を導入する際の指針は作られていない。

そこで、ハダニ防除に天敵を使用しているイチゴ生産者が、収量・品質・ハダニの防除効果についてどのように評価しているか検討したところ、知見が得られたので参考資料とする。

### 2 参考資料

#### 1) イチゴ生産者の減農薬栽培導入条件

a イチゴ生産者は、導入条件として収量と品質の安定生産技術を重要視している(図1)。

b イチゴの害虫被害では、天敵使用者・未使用者ともにハダニの被害を第1位にあげている(表1)。

#### 2) 天敵を継続的に使用している生産者の技術評価

##### a 収量と品質についての評価

収量は、回答のあった人すべてが天敵導入後も「慣行と同等」と答えている(図2)。

品質は、回答のあった人すべてが慣行と同程度かそれ以上と評価している(図3)。

##### b 防除効果に対する評価

防除効果では、薬剤散布時期の判断が容易であることや薬剤価格で天敵使用者は未使用者より評価が高い(表2)。

### 3 利活用の留意点

1) 生産者がイチゴのハダニ防除に天敵を導入する場合の資料となる。

2) 調査方法および内容は以下のとおりである。

調査方法：郵送アンケート調査

調査対象：県内イチゴ栽培に天敵を使用している生産者(回答19戸)

A地域農業改良普及センタ - 管内イチゴ生産者(回答106戸)

生物農薬(天敵)名：チリカブリダニ

#### 4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間：寒冷地におけるハクサイ・イチゴの環境保全型栽培技術の確立  
平成14年度(平成13～14年度)

2) 参考データ

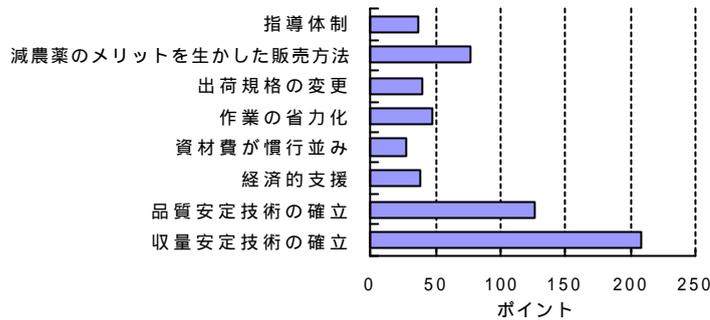


図1 減農薬栽培の導入条件(イチゴ生産者106名)  
ポイント：導入条件1位3点～3位1点の合計。

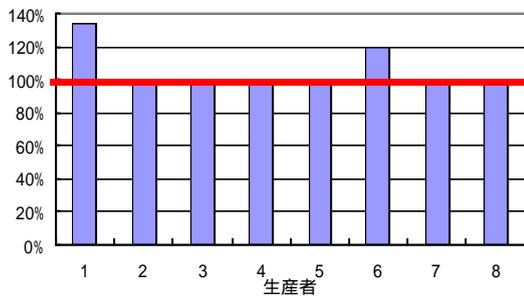


図2 収量の評価(天敵使用者)

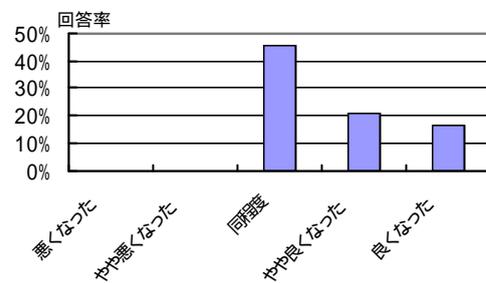


図3 品質の評価(天敵使用者)

表1 害虫被害の現状

		天敵使用者	天敵未使用者
ハダニ類		4.75	4.63
被害順位の内訳 回答数(%)	1位	13(81%)	68(71%)
	2位	2(13%)	21(22%)
	3位	1(6%)	6(6%)
	4位	0(0%)	1(1%)
	5位	0(0%)	0(0%)
オンシツコナジラミ類		2.75	3.22
ヨトウムシ類		2.63	2.35
アザミウマ類		3.43	3.31
アブラムシ類		2.42	2.35

注：被害の大きいものから1位を5点、2位を4点、3位を3点、4位を2点、5位を1点として合計し、回答数で除した。数字が大きいほど、被害が大きい。

表2 ハダニ類に対しての防除技術の評価

	散布時期の判断が難しい	薬剤の価格が高い
天敵使用者	2.36	3.32
天敵未使用者	3.71	4.83
T <=	0.062 *	0.083 *

注：各項目毎に「強くそう思う」～「そう思わない」を5段階評価した平均値。数字が大きいほど、「強く」感じている。\*：=10%で有意差有り。

3) 発表論文等 なし